

令和7年度第4回狭山市上下水道事業審議会会議録

開催日時	令和7年11月20日（木） 午後2時00分から午後4時00分まで
開催場所	狭山市役所 7階 職員研修室
出席者	持田会長、野澤副会長、伊藤委員、近藤委員、橋委員、吉松委員、 浅見委員、大野洋美委員、岡田委員、真道委員
欠席者	大野裕明委員、諸口委員、関根委員
事務局	吉村上下水道部長、内山上下水道部次長（下水道施設課長兼務） 経 営 課：小高課長、小坂主査、金子主査、橋本主査、福田主事、 手塚主事、宮岡主事、高橋主事補 水道施設課：小林課長、杉山主幹、村田和宏主幹、平田主幹、 下水道施設課：市川主幹、石井主幹、村田努主幹、若林主査
傍聴者	0 名
報道関係者	無 し
議 事	（1）社会資本整備総合交付金（污水）について、資料をもとに説明。 （公開）
質 疑 委 員	污水計画の効果について具体的な数値はありますか。
事務局	不老川下流で毎年行っている水質検査において、水質環境基準のBOD 測定値は平成27年の1.45mg/lから令和6年の0.925mg/lへと大 幅に減少しております。
委 員	污水計画の定量的指標が当初95.2%であるが、当初現況値覧は96%で あり、違うのはなぜか。
事務局	定量的指標に用いております、95.2%は平成27年の調整4期整備事 業当初の数値であり、当初現況値の96%は令和2年の污水計画当初の 数値なので相違があるものです。
委 員	補助充当率が25%と低いのは、補助対象工事の中に補助対象外の工事 も含んだ数値ということか。
事務局	要望した交付額に対し、要望どおり交付されなかった事や単独費が含 まれているものです。
委 員	社会資本整備総合交付金は他事業との取り合いにならないか。
事務局	申請は事業ごとに積算したものをまとめて申請し、交付は事業ごとに されますので、取り合いになることはありません。

委員	雨水計画の効果について具体的な数値はありますか。
事務局	入曽駅周辺の床上床下浸水被害の件数につきましては、平成28年は100件でしたが、整備が完了した令和6年は75mm/時のゲリラ豪雨が あったものの被害の報告はありませんでしたので、一定の効果はあったと考えております。
議 事	(2) 水道料金及び下水道使用料の改定について、資料をもとに説明。 (公開)
質 疑 委 員	使用量の少ない方への配慮がされている改定案になっているが、当初の使用料も低額であるため、激変と言っても激変ではない。今回の改定案では大口への負担がより強くなっている。20代から60代の働いている単身世帯への負担も緩和されてしまうのではないか。今後の時代を見据えると単身世帯が増える。狭山市の産業への負担が大きく、狭山市の産業が衰退してしまうのではないか。
事務局	下水道使用料も含め基本料金の比較やシミュレーションを再確認し、再度検討します。
委 員	基本的には年金生活をしているのが高齢者である。料金をではなく、低所得者に対して何かしらの支援をするという手段もあるのではないかと考える。
事務局	上下水道部では、納税情報は持っていないため、利用者が低所得者であるといった情報は持っていない。本市の状況を見ると、高齢化率は県の平均を超えて32.2%であり、単身世帯や高齢者のみの世帯が増えているのは、他の計画などで明らかとなっている。そうした資料を用意できるか検討する。
委 員	事務局の案は概ね妥当である。改めて思うのは、いかに大口径のところが支えているのかということ。大企業が撤退することなどを考えると、狭山市の企業立地や人口の見通しや土地利用の考え方などが上下水道料金にどう影響してくるのか考えながら、他の部と情報共有を行い、市の実態に沿った運営をしてほしいと考える。
事務局	今後、料金改定を進めることについて委員の方々の了承を得て終了。
議 事	(3) 狭山市デザインマンホールの選定について、資料をもとに説明。 (公開)
質 疑	なし

他に質疑はなく、会議は全て終了となる。